

登録コード	MA700700	開講年度	2026			
授業科目名	保健医療福祉システム論				担当教員	下里 誠二 他
英文授業名	Lectures in Health Care Systems				副担当	川口 典男・山崎 浩司
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限 木曜・5時限	対象専攻／学年
講義室	保健学科2 2 2 講義室		授業形態	講義	授業科目区分	選択科目
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄					
	MS 2 6カリ(保健学), MS 2 5カリ(保健学), MS 2 4カリ(保健学), MS 2 3カリ(保健学)					
	【保健学】保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。 ⇄				保健・医療・福祉におけるシステムを理解し、専門職・研究者・一市民として連携し、研究課題を検討することができる	
(2)授業の概要	各地域で地域包括ケアシステムの確立が推進される中、専門機関や専門職レベルにとどまらない、一般市民も巻き込んだ保健・医療・福祉の連携や協働のあり方が模索されています。本授業では、自治・協働、コミュニティ、精神障害、介護をキーワードに、現代日本における保健医療福祉システムのあり方と、このシステム内で医療専門職・研究者・一市民として、関連セクターといかに連携・協働すべきかを検討します。					
(3)達成目標（一般学習目標G I O）	1. 保健医療福祉システムを、フォーマル・インフォーマルの両面から理解できる。 2. 保健医療福祉システム内で、自らが専門職・研究者・一市民として、いかに連携・協働すべきかを検討できる。					
(4)達成目標（個別行動目標S B O s）	1. 保健医療福祉システムの成り立ちを、フォーマル・インフォーマルの両面から説明できる。 2. 医療専門職・研究者・一市民として、保健医療福祉システムにおける自らの立ち位置とかかわり方を説明できる。					
(5)授業計画	第1・2回（4/9 4限～5限） ガイダンス、精神科医療システム（担当：下里） 第3・4回（4/23 4限～5限） 精神障害者と犯罪、医療観察法による医療システム（担当；下里） 第5・6回（5/7 4限～5限） 課題発表（担当：下里） 第7回（5/14 4限） 文献抄読（担当；山崎）※水曜・4限 第8回（5/21 4限） 文献抄読（担当：山崎）※水曜・4限 第9回（5/28 4限）文献抄読（担当：山崎）※水曜・4限 第10回（6/4 4限） 文献抄読（担当：山崎）※水曜・4限 第11-12回 （6/11限～5限） 介護保険制度改正と今後の課題（担当：川口） 第13-14回 （6/18 4限～5限） 介護福祉サービスの特性・介護マンパワー不足の検討（担当：川口） 第15回（6/25 4限） まとめ（担当：下里） ◎日程は、運営上および外部講師の予定などで、開講後に変更となる可能性があります。受講生数はごく少数であることが多いため、受講生と相談をして決定します。 ◎上記日程にない木曜日は予備日としています。日程変更の可能性があるため、開講後日程が確定するまでは、木曜日午後はあけておいてください。					
(6)授業の進め方	下里誠二：概要の説明、講義、各自の専門職領域での保健医療福祉システムについての発表とディスカッションを行います。 山崎浩司：概要の説明後、指定文献の報告担当を決めて内容の発表、ディスカッション形式で行ないます。 川口典男：介護保険を中心に社会保障制度のポイントの簡潔な講義、受講者の興味を加味したディスカッションと小テストを行います。 ◎この授業は対面もしくはZoom等によるオンラインで開講します。オンライン開催の場合には、事前にZoomのURLを配信します。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	下里担当分は、精神保健福祉システムに関する講義、文献抄読とディスカッション、また受講生自身の専門職領域における保健福祉医療システムに関するレポートとディスカッションを行います。 山崎担当分は、毎回リーディング課題を課し、読解した内容の要約、疑問点、関連文献を踏まえた発展的議論などを、レジュメにまとめて次回授業で発表してもらうため、その準備をしっかりとしてから授業に臨むこと。川口担当分については、川口担当初回授業で説明があります。					
(8)成績評価の方法	レポート課題は、下里・川口担当分でそれぞれ1回計2回課し、いずれも100点満点で評価します。リーディング課題（山崎担当分）は、レジュメ作成による発表を複数回課し、いずれも100点満点で評価します。リーディング課題50%、レポート課題50% すべての合計が60点未満は不可とします。					
(9)成績評価の基準	【レポートの場合】 (i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。90-100点(秀), 80-89点(優), 70-79点(良), 60-69点(可), 60点未満(不可)とします。 山崎担当回の指定文献に基づくレジュメ発表で求められる要件は、次のとおり： ①文献の内容が過不足なく要約されている ②要約だけでなく文献を読みこんだことで出てきた自分なりの疑問や問題意識が提示されている ③全体の議論が極めて論理的に展開されている					

(9)成績評価の基準	④自ら追加の関連文献を読み議論を発展させている 「4項目を満たしていて、かつ、教員を感心させるものであれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、①～③できていれば「やや上にある」、①と②ができていれば「水準にある」とします。」
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	★★履修予定者は、全員、必ず4月9日の第1回授業の前までに、履修予定である旨を 下里までメールで連絡してください。 sshimos@shinshu-u.ac.jp ★★ 講義全体のことは、下里まで。各回の内容については、各講師に質問してください。 連絡先 下里誠二：中校舎4階 sshimos@shinshu-u.ac.jp （コース全体に関することについては下里まで） 山崎浩司：hyamazaki@s-sph.ac.jp 川口典男：nkkawa@yahoo.co.jp
【テキスト，教材，参考書】	○各講師が指定します。